認定NPO法人サービスグラント

年次報告書

2023-2024

2023年4月1日－2024年3月31日

世界のプロボノの潮流

グローバル・プロボノサミットの日本初開催の報告 ——

2023年11月－12月、日本初となる グローバル・プロボノサミットTOKYO 2023 を開催しました。その４日間を通じて、世界各国で進化の最先端を切り開く本人たちから、プロボノの最新状況と無数の知見が途切れることなく共有され続けました。

Global Pro Bono Summit 2023 TOKYO 開催概要

会期：2023年11月29日-12月2日　　会場：日本・東京都内各地

参加者：グローバル・プロボノネットワークメンバー　28名（15カ国17組織）

公開セミナー・イベント参加者　約300名（オンライン参加含む）／プロボノ＆ボランティア　約30名

主催：認定NPO法人サービスグラント

共催：グローバル・プロボノネットワーク

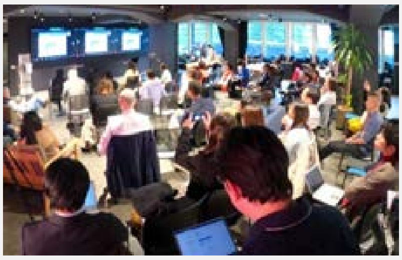
特別協力：BMW Foundation Herbert Quandt

※ 本イベントは、「令和5年度 渋谷区ふるさと納税を活用した認定NPO法人支援事業」を通じて頂いたご寄付や様々な方のご協力のもと開催しました。

1日目：チェックイン＆イントロダクション　18:00-20:00／Turntable Shibuya

サミットのキックオフとして、待ち望んでいた再会を祝うとともに、新しくネットワークメンバーとなったVIO Society（ケニア）およびNPO法人クロスフィールズ（日本）を歓迎する、カジュアルなパーティーを開催しました。日本の伝統的儀式「鏡開き」で祝った後は、3カ国から活動を紹介するプレゼンテーションが行われました。

2日目：企業セミナー　13:30-16:00／住友商事 MIRAI LAB PALETTE



各国の多様な企業における協働プログラムの先進的な事例から、企業においてプロボノプログラムを戦略的に導入するための多くのインスピレーションが与えられる、貴重なセッションとなりました。企業の社会貢献におけるプロボノ導入の価値、人材育成における新たな可能性、プロボノ導入におけるフレームワークなど、具体的手法や新たなキーワードが多数飛び交いました。

後援：一般社団法人 日本経済団体連合会、住友商事株式会社

3日目：行政・中間支援セミナー　13:00-14:45／渋谷商工会館

政府の政策の一環としてプロボノを位置づけている事例や、イノベーティブな手法で社会的インパクトを創出している団体支援の取り組みを6カ国6名から紹介していきました。ボランティアマネジメントの強化、体系的な組織分析と支援手法の仕組みづくり、デジタル技術の活用など、非営利組織の基盤強化をより効果的に支援する手法がちりばめられた、実り多いセッションとなりました。

後援：渋谷区

シブヤ・スコーパソン　15:15-17:30／渋谷商工会館

渋谷や東京周辺で活動する5つの非営利団体とともに、各団体の活動課題の整理に取り組みました。グローバル・プロボノネットワークのメンバーとともにシンガポールで開発されたツールキットを活用し、課題の優先順位付け、プロボノ導入の可能性の検討、プロジェクトスコープ（目標）作成に取り組みました。

代表理事　嵯峨 生馬

Think Globally, Act Locally. このフレーズは、サービスグラントにもよく当てはまります。
米国で垣間見たプロボノの仕組みに強いインスピレーションを受けたことが誕生のきっかけであり、グローバル・プロボノサミットを機に全世界とのネットワークが生まれました。1DAY、プロボノリーグ、GRANTなどの新たなプログラムは、世界各地の動きを見続けてきたことが大きな原動力となっています。
けれども、海外からの"輸入"だけではありません。「ママボノ」は今後ますます世界各地に広がっていきます。海外からの取材や視察も時折訪れます。世界の動向を取り入れながら活動を進化させ、日本の課題を起点としたプログラムが世界に広がっていく･･･とすると、こうも言えそうです。
Think Locally, Act Globally. 私たちの持ち味である仕組みづくりの思考に、繊細な観察力とダイナミックな発想力を掛け合わせ、日本と世界に新しい風を吹かせる存在であり続けたいと願っています。

3日目：プロボノプレイス・グローバル　18:30-21:00／BPM Tokyo（池尻大橋）

グローバル・プロボノネットワークのメンバーと日本のプロボノワーカー・NPOのみなさんが、互いの活動やストーリーを紹介しながらざっくばらんに語り合いました。国籍や立場を超えたプロボノへの想いがシナジーを生み、各言語での掛け合いや歌に全員で応えるなど、会場は熱気と一体感に包まれました。

4日目：サイトビジット　8:00-12:00／都内各地

参加者は4つのグループに分かれ、日本の非営利団体を訪問するツアーに参加しました。それぞれの団体の活動と、各団体におけるプロボノ支援の成果を共有することは、各国の今後の取り組みに向けたインスピレーションになりました。

訪問先：NPO法人境を越えて／ 認定NPO法人 JUON（樹恩）NETWORK／NPO法人バディチーム／ママボノ（認定NPO法人サービスグラント）

未来セッション　13:00-18:00／明治学院大学 白金キャンパス

未来の社会にポジティブな影響を与える、学生とのプロボノの取り組みについて、4つのセッションを実施しました。大学や研究機関と連携したり、学生と社会人が協働して取り組むプロボノプログラムの事例を共有するとともに、参加した学生やプロボノワーカー等と共に、多様な視点からアイデアを出し合いました。

協力：明治学院大学 社会学部石原英樹ゼミ・坂口緑ゼミ

グローバル・プロボノサミット
ドキュメンタリー動画

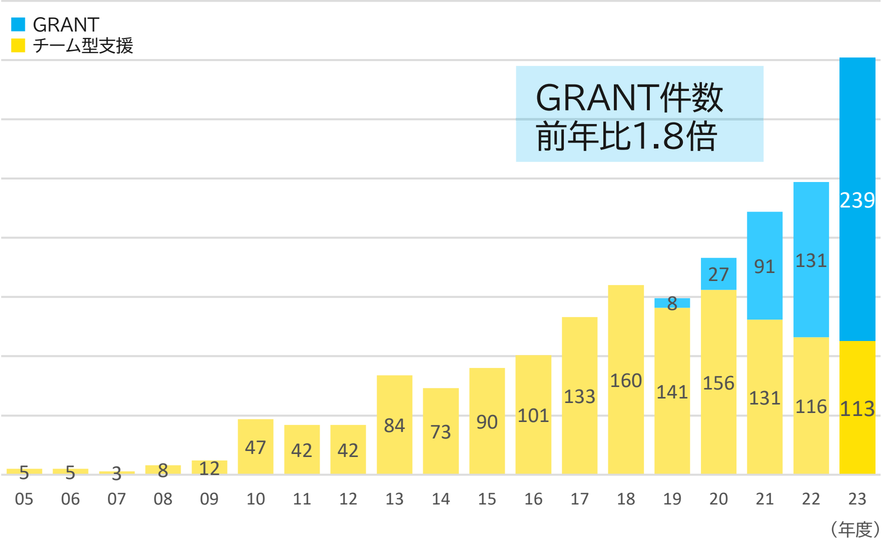
YouTube

数字で見るサービスグラント

年間352件のプロジェクトを実施

チーム型支援及びGRANTの総計

プロジェクト実施件数の推移



NPOの基盤強化に向けて、複数名の多彩なスキルを持つプロボノワーカーを編成する「チーム型支援」で113件。団体のニーズに対し、支援者とのスピーディーなマッチングの場を提供する「GRANT」では239件の支援が実現。チーム型支援の安定した提供とGRANTの活用場面の広がりによって、より多くの団体の幅広いニーズに応えるプロジェクト型協働の機会を生みだしています。

支援プログラムの例

NPOの運営基盤強化に直接寄与する成果物のほか、短期的なニーズや活動の特性に寄り添った、多様なプロジェクトが生まれています。

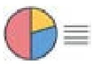
情報発信支援プログラム

ウェブサイトリニューアル設計
ウェブサイト
Facebook・SNS活用
印刷物、映像

ファンドレイジング支援プログラム

営業資料
寄付管理
クラウドファンディング

事業戦略支援プログラム



事業計画立案
マーケティング基礎調査
課題整理ワークショップ
アンケート活用入門
事業評価

業務改善支援プログラム

業務フロー設計
活動運営マニュアル
クラウドツール活用入門
経理・税務改善

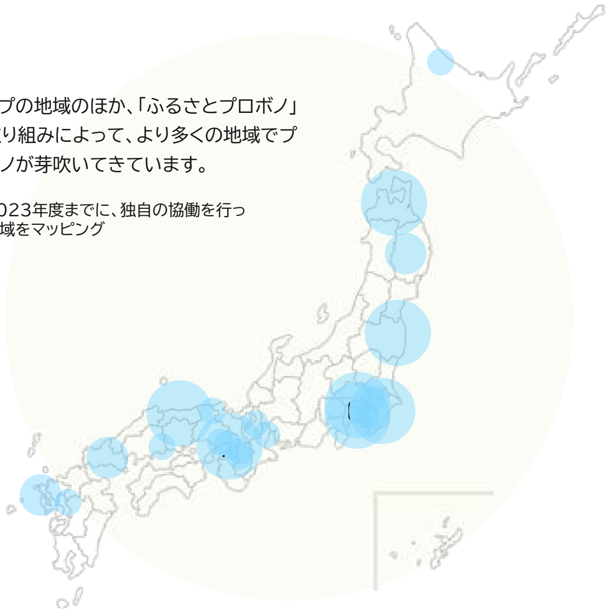
チーム型支援のSDGs別実施件数（2023年度）

これまでに、企業24社、29の行政機関 9の財団・中間支援組織が サービスグラントと協働で 独自のプロボノプログラムを実施

2023年度は、支援先NPOのニーズと各企業が取り組む社会貢献の方向性をふまえ、8社のプロボノプログラム運営をサポートしました。 また、全国10を超える行政機関、財団・中間支援組織と協働し、社会参加による課題解決に向けて、地域の特色を活かしながら、長期的な広がりを持つプロジェクトを実施しました。

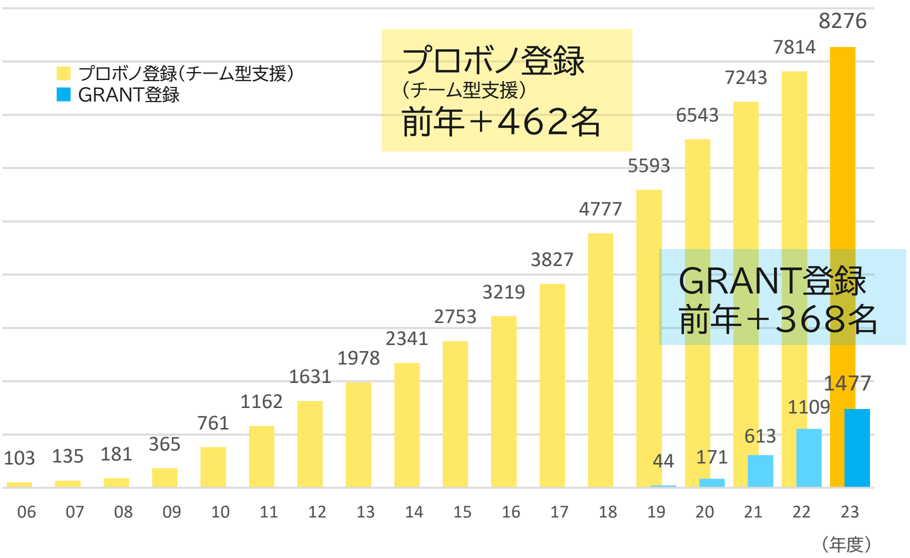
マップの地域のほか、「ふるさとプロボノ」の取り組みによって、より多くの地域でプロボノが芽吹いてきています。

※2023年度までに、独自の協働を行った地域をマッピング



※本書掲載内容は、すべて2024年3月末時点での情報です。

登録者の推移 （一部登録外プロジェクト参加者を除く）

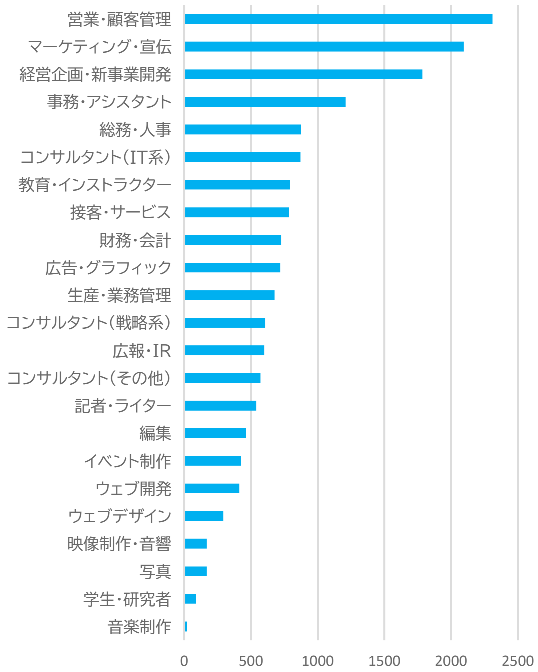


累計8,276名がプロボノ登録(チーム型支援)

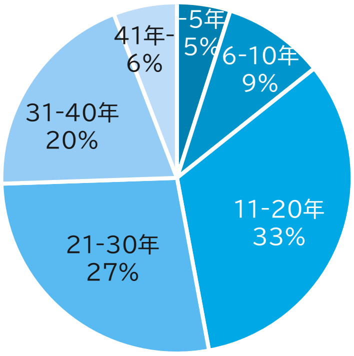
＋GRANT登録 累計1,477名

ビジネスパーソンを中心に、社会課題解決への関心、組織や業界の枠を超えたマルチセクターによる協働の機運、社会・地域参加意識の高まりなどを追い風として、幅広い年代・職種の方にプロボノ登録をいただいています。
仕事で培ってきた多彩なスキルや経験を活かしながらも、職場ではできないことにチャレンジし、自身の可能性の幅を広げている方も多く見受けられます。
参加者の9割以上がプロボノを通じて「自身の視野が広がったり、人間的成長につながった」と回答していることはチーム型プロボノプロジェクトの大きな特徴といえます。
チームでの濃密な経験は、GRANTを通じた個人でのプロボノ活動や「社会参加オープナー」「ソーシャルアクションアカデミー」などの異なるスタイルのプログラム、身近な地域やNPOへの参加、そして社会課題にリーチする新たな仕事へのステップアップへとつながっています。
また、プロボノ参加者のうち約3割の方が、複数回のプロボノを経験しており、プロジェクトのクオリティ向上において、非常に心強い存在となっています。

プロボノ登録者（チーム型支援） 職種別登録者数
～2023年度累計 ※複数回答



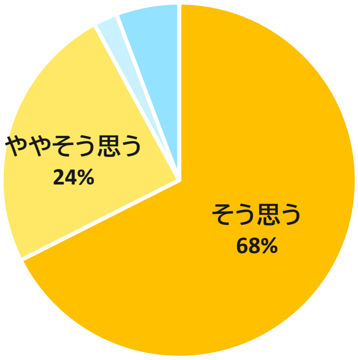
職種・年齢ともに幅広い社会人が参加



社会人年数の比率
2023年度プロボノ参加者（チーム型支援）

参加者の9割が視野の広がりや成長を実感

「自身の視野が広がったり、
人間的成長につながった」



プロジェクト終了時アンケート
2023年度プロボノ参加者（チーム型支援）

サービスグラントのプロボノプログラム

チーム型支援｜社会課題解決に取り組むNPOの基盤強化のため、多様な人材が集結

2023年度は113件のチーム型支援（サービスグラントが提供するプログラムを基準とし、個別に編成したチームによって支援するプロジェクト）を実施しました。成果物に対して、支援先団体・参加者双方からの高い満足度を維持するだけでなく、団体からは「外部の方から刺激を受けるとともに、自団体の魅力を再発見でき、活力が生まれた」、参加者からは「視野が広がり、自分のスキルに自信が持てた」といったコメントが毎年多数届いています。

支援先満足度 99%

参加者満足度 98%

※2024年3月までの支援先団体・参加者へのアンケート調査より、「とてもよかった」「よかった」、「とてもよい印象を持っている」「よい印象をもっている」と回答した割合

主なプログラム

・**長期チーム型プログラム**
課題の背景や団体の現状理解をしっかりと行い、長期的な活動基盤強化につながる成果物を3～6カ月かけて作成します。

・**短期チーム型プログラム**
1日～2カ月の短期集中型で、各種調査提案や課題整理、情報発信ツールなどの成果物提供にチャレンジします。

助成申請団体の審査やプロジェクト準備を経て、春、夏、秋に大規模な参加者募集イベントを実施。

・**スコーパソン**
短時間で団体の運営課題解決への道のりを言語化することに取り組む「スコーパソン」は、プロボノワーカーと団体での協働を体験するとともに、課題整理の手ごたえを感じられる、プロボノの入門的なプログラムです。

・**ママボノ**
育休などから復職を目指す子育て中の女性チームで取り組むプログラム。2013年度の開始以来117件のプロジェクトを実施し、本年度は40名が参加。また、復職済みの人も参加できる「ママボノNEXT」には30名が参加し、広島での2泊3日のヒアリング合宿を組み込んだ「ふるさとママボノ」、NPOの代表・スタッフを対象とした「NPOメンタリングプログラム」等を実施しました。
2023年度 渋谷ジェンダー平等推進アワードを受賞。

755人が ママボノに参加
※2013-2023年度参加者数

チーム型支援の特徴

プロジェクトの参加に立候補したプロボノワーカー複数名でチームを組み、サービスグラントの提供する進行ガイドなどをもとに団体特性に合わせてアレンジしながら、NPOの基盤強化につながる具体的な成果物を提供します。

多様性のあるチーム
役割の異なる5人前後のチーム

仕事と両立可能な時間・期間
週3-5時間（主に平日夜・週末）× 1-6カ月

明確なゴールとプロセス
成果物提供までの道のりをサポート

GRANT ｜今すぐ、どこからでも使える社会参加プラットフォーム

支援を求める団体と、経験や得意なことを活かしてみたい個人をつなぐ、社会参加プラットフォーム「GRANT」。プロジェクト・オンライン相談に加えて2023年度には、活動現場体験やイベント、ボランティアにも対応。全国各地の中間支援組織による活用もますます広がりを見せています。

年間で239件が完了

（プロジェクト218、オンライン相談21）

＋62イベントで成立

※2023年4月～2024年3月

GOOD DESIGN

2022年度グッドデザイン賞を受賞。

https://grant.community/

団体

経験やスキルを持った支援者や、イベントの参加者など、団体の抱える多様なニーズに関する募集を発信しています。

登録団体 582団体

参加者

ICT、SNS、WEBディレクション、経理、チラシ作成等々、多彩な経験や得意分野を持った参加者が活躍しています。

参加登録 1477人

コーディネーター

地域や分野別に、団体とのネットワークを持つ「中間支援組織」が、団体の支援ニーズと参加者の橋渡しを担います。

コーディネーター 68団体

※登録数は2024年3月31日までの累計

支援先満足度 4.9 ポイント

参加者満足度 4.5 ポイント

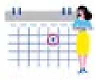
※「大変満足」を5ポイントとしたプロジェクト完了者アンケートの平均（2024年3月まで）

GRANT の特徴

社会参加に関心のある個人が気軽に参加でき、かつ、NPO・地域団体にとって負荷の少ない形で、新たな社会貢献のカタチを実現。全国の中間支援組織と連携しながら、各地で地域づくりや課題解決を推進しています。

個人と団体をマッチング

チームを組んでの参加も可能



いつでも、いくつでも

最短1日～3カ月程度の短期

オンライン上で管理

明確なゴールとアクション

新たな取り組み

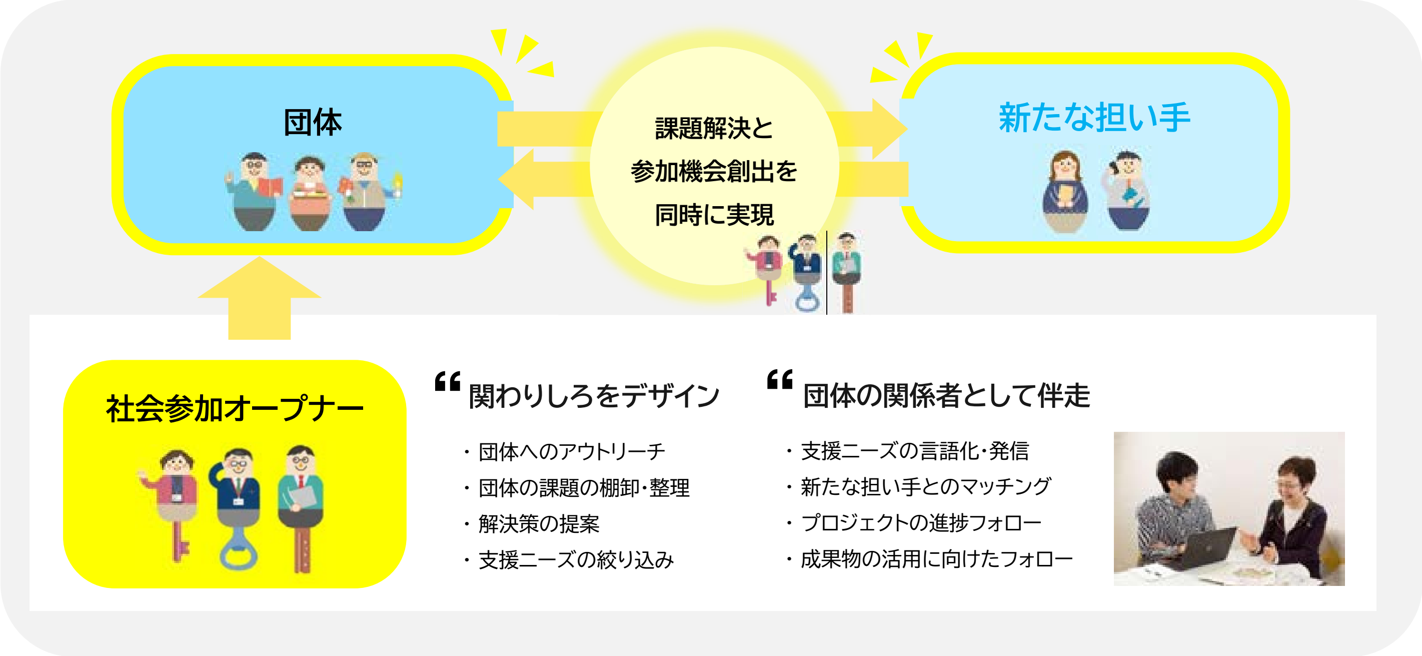
「社会参加オープナー」養成プログラム

社会課題解決と参加機会創出を同時に実現する“つなぎ手”を各地に

「社会参加オープナー」とは、NPO・地域団体の課題やお困りごとと、その解決に役立つプロボノワーカー・ボランティアなど新たな担い手とをつなぐ、サービスグラントが創設したソーシャルロールです。プロボノ経験者や地域のコーディネーターなどを対象に2023年秋に第1期を開講。受講修了者は、さっそく新たな「プロジェクト型協働」の機会創出に動いています。“つなぎ手”の輪を全国各地に広げるため、今後も各地で開講していきます。

社会参加 オープナー SOCIAL ENGAGEMENT OPENER

第1期
33名が受講



社会参加オープナーになるまでのステップ

基礎講座・実践講座からスタートし、実績をつくることで、正式に社会参加オープナーとして認定されます。

[1] 基礎講座: 動画教材やオンライン試験の受験
[2] 実践講座: 集合型プログラムの受講
[3] 受講者コミュニティへの参加
[4] 「プロジェクト型協働」機会創出の実践
[5] 実績申請: 審査を経て「社会参加オープナー」認定

2023年9月23日
初回「実践講座」には
12名が参加。

社会参加オープナー 創設の流れ

2022年7月	理事会を開催。サービスグラントのコーディネート手法の普遍化を進める事業についての検討に着手
2022年12月	新資格制度創設委員会を創設。7名の有識者の議論が開始
2023年1-3月	中間支援組織やプロボノ経験者へのインタビュー等を実施
2023年5月	総会にて事業化を正式承認
2023年9月	実践講座を初開講。以後、2023年度（第1期）は合計33名がプログラムに参加
2024年1月	実績申請の中から1名を認定

認定者・受講者の一覧はこちら ▶
https://grant.community/openers

※「社会参加オープナー」は、2023年度「お買いいもの～It’s Shopping for Good.～」キャンペーンを通じてみなさまから頂いたご寄付を活用させていただいています。

世界33カ国のプロボノ団体を束ね、新たな可能性を模索

グローバル・プロボノネットワーク

2023年11-12月に実施したグローバル・プロボノサミットをきっかけに、サービスグラントは2024年より、グローバル・プロボノネットワークの事務局を担うこととなりました。これを機に、プロボノの仕組みを通じた社会課題解決を世界規模でさらに加速させるべく、2024年10月には「プロボノウィーク」における新企画の実施など、各国の先進的な知見を共有する場を増やし、連携を深めていく予定です。

GLOBAL PRO BONO NETWORK

重層的な支援体制の整備に向け、コミュニティマネージャーとして社会福祉協議会と協働

渋谷区地域共生サポートセンター ＜結(ゆい)・しぶや＞

渋谷区社会福祉協議会

「結・しぶや」は、子ども・障がい・高齢・生活困窮など分野別の支援体制では対応しきれない複雑化・複合化した課題に対し、分野を横断して一体的に取り組む包括的な支援体制を構築することを目的とした「重層的支援体制整備事業」の一環として、渋谷区が2023年11月に開設しました。「重層的支援体制整備事業」を担う地域のさまざまな団体が交流・連携することにより、新たな取り組みや複雑化・複合化した困りごとを抱える地域住民へ寄り添った支援を強化することを目指しています。

渋谷区文化総合センター大和田の9階にある施設には、火曜日から土曜日まで、渋谷区社会福祉協議会 地域福祉コーディネーターやコミュニティマネージャーが常駐し、団体からの相談対応を行うほか、講座の実施や交流の機会提供、新たな取り組みの支援を行っています。サービスグラントは、これまでに培ってきた団体支援やプロジェクト型協働のノウハウを活かし、コミュニティマネージャーとして、渋谷区社会福祉協議会と協働で事業を推進しています。

結・しぶや

長崎県との協定を締結。県内でのプロボノ推進へ

ながさきプロボノチャレンジ推進事業

長崎県

長崎県では、NPO・地域活動団体の運営基盤強化を推進するため、県外・県内の企業人等の力を活かすプロボノに着目し、サービスグラントとの連携協定を2023年5月25日に締結しました。自治体との協定締結はサービスグラントにとって初めてで、計画や仕様に縛られない柔軟な対応ができる点が特長です。2023年度は2団体3件のプロボノプロジェクトを完了し、今後は県内企業などを巻き込んだ展開を見込んでいます。

プロボノワーカー主体で推進する、新たなプロボノ活動が拡大中

デジボノ

「デジボノ」はデジタル活用の悩みを抱えるNPOに対し、課題の整理から、実際の支援まで一気通貫でサポートしているプロボノグループです。プロボノワーカーであり、サービスグラントのパートナーであるメンバーの発案により2022年6月に活動を開始し、プロボノワーカー20名が参加。自主運営のもと、累計25の支援を行い、活動を継続しています。
2024年度は地域を超えて、広く各地への支援へと活動を拡大します。

企業とプロボノ

企業で働く人々が、社会課題のリアリティに直接触れ、ソーシャルセクターとの協働やパートナーシップを通じて社会感度を高め、課題解決力を発揮できる場として、またVUCA時代において活躍できる人材の育成の場として、企業に向けたプログラムを提案しています。

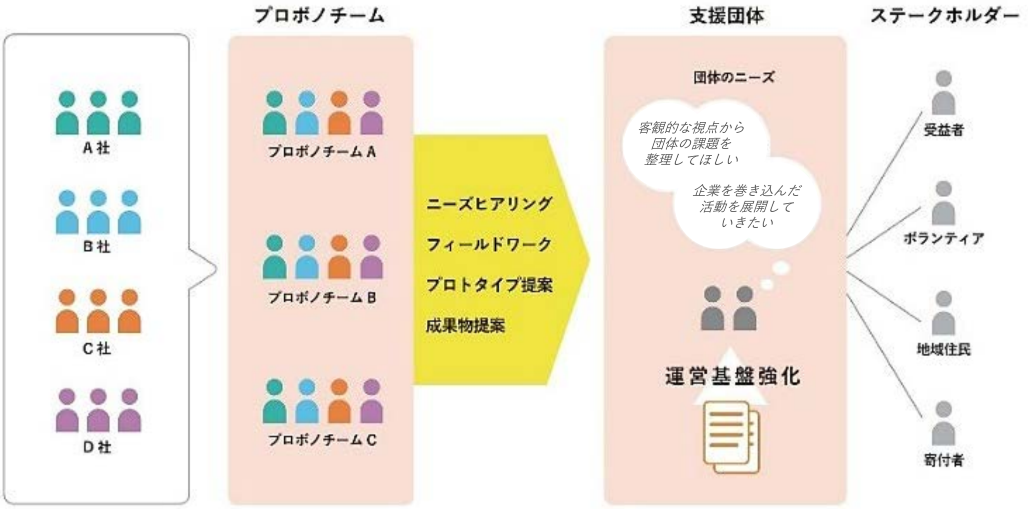
社会課題解決型　越境学習プログラム｜プロボノリーグ

初めて顔を合わせた異業種のメンバーでチームを組み、業務で培った経験やスキルを活用し成果を出す「プロボノリーグ」は、社会や地域のリアルな課題を題材にした実践型の人材育成・越境学習プログラムです。現地訪問での交流や体験により、社会感度を高め、共創力を体得し、変革を促すイノベーションマインドを醸成します。

参加企業33社

参加者203名

※2016年度〜2023年度



2023年度 参加企業（50音順）

- 株式会社アイシン
- 小林製薬株式会社
- セイコーエプソン株式会社
- 一般社団法人日本能率協会
- 東日本旅客鉄道株式会社 松戸車両センター
- フコクしんらい生命保険株式会社
- 富国生命保険相互会社
- リコーリース株式会社

（8社22名）

支援先1：一般社団法人ピーペック

病気をもつ人の”こえ”を集積し、世の中に新しい価値をもたらすため様々な形で発信している団体を支援しました。団体のさらなる認知度向上に向け、健康経営を目指す企業のアプローチ方法、チラシやSNSを活用した、潜在的な当事者集めの施策を提供しました。

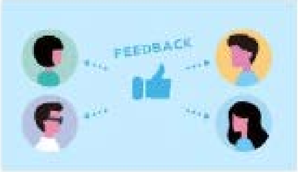
支援先2：はびろ農業公園みはらしファーム

長野県伊那市の南アルプスが一望できる高原にある農業公園。果物の収穫や、草木染等が体験できますが、従事者の高齢化、利用客のニーズ変化という課題がありました。地域創生と活性化を目指した経営継続や、経営状況・利益の見える化、販路拡大施策、SNSによる認知度向上施策を提供しました。

プロボノリーグの特徴

具体的な成果をNPOや地域団体に提供する
アクションラーニング

切磋琢磨し、自己発見につながる
異業種混合チーム



学びを職場に活かす
客観的・定量的フィードバック

参加者は自身の価値観の言語化と目標設定を行った後、プロジェクトに臨みます。社会セクターについて知り、NPOや地域団体の課題を理解し、異業種混合チームで支援内容の企画提案から実行までのプロセスを実践しながら経験します。終了時に、他者からの客観的・定量的なフィードバックを得て、その学びを個人の成長に、そして職場をはじめ自分を取り巻く世界への貢献として活かします。

企業協働プログラム | 企業の特性に合わせた社会貢献／人材研修プログラム

社会課題解決の直接的な担い手となることで、社員が社会感度を高めながら貢献の手ごたえを得られるほか、企業内で部署の垣根を超えて協働することで、知見の共有やスキルの再認識、仕事へのモチベーション向上に寄与しています。また、各企業の特性や重点領域に則した支援先・支援内容に対して、日ごろの業務で得たスキルで貢献することは、社員にとって自社の社会的価値を再認識する機会にもなり、社員のエンゲージメント向上へとつながっています。

協働企業24社

※2016年度～2023年度

富国生命保険相互会社 新経営塾 プロボノ研修

富国生命保険相互会社

富国生命保険相互会社は、将来を担う若手社員向け研修プログラム「新経営塾」を2023年から開始し、社員の自律を促し社会感度を高める目的のもと、プロボノ活動をプログラムに取り入れました。2023年上期は20名、下期は17名の社員が4-5名のチームを編成。各チームが非営利組織に向かい合い、課題整理と解決策の提案を行いました。社会課題を自分ごととして捉え、自ら考え行動することの大切さを経験できる場となりました。

ベイカレント・コンサルティング プロボノプログラム

株式会社ベイカレント・コンサルティング

パーパスである“Beyond the Edge 変化の一番先に立ち、次への扉をともに開く。”のもと、社会課題解決に取り組むNPOとともに、より良い社会の実現を目指して、プロボノプログラムを開始。コンサルティングサービスを通して得た専門的な知見・スキルを生かし、事業戦略立案や実行支援など、本業でクライアントに提供しているサービスと同様の支援を実施しました。本年度は、経験豊富なコンサルタントを専任でアサインし、3カ月間で2団体の事業戦略を立案。施策提案のみならず、一歩踏み込んだ実行支援により、具体的な成果に繋げました。

NTTコミュニケーションズ プロボノプロジェクト

NTTコミュニケーションズ株式会社

社員への社会貢献活動の場の提供と関心の醸成をはかること、そして、得られる新たな体験や視点を参加社員自身の今後の業務や生活に活かすことを目的として、プロボノプロジェクトを実施しています。初の取り組みとなる2023年度は、2～4月にかけて、フリースクールやまちづくりを行う2団体に対し、プロジェクトを実施しました。短い期間ながらも、各団体の組織課題の解決につながる成果物を提供し、終了後は企業内で成果を報告する会も実施しました。

SMBCグループ プロボノワーク

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

株式会社三井住友銀行は、2011年度から邦銀初の取り組みとして、従業員ボランティアの一環でプロボノを開始しました。2014年度からSMBCを含むSMBCグループ各社の従業員に展開。2023年度からは業務時間の最大20%を活用できる制度を導入し「SMBCグループプロボノワーク」としてグループ全社で推進しています。本年度は非営利法人5団体を対象に11社48名のグループ社員が参加。4～6カ月のプロジェクト型支援を行いました。

NTTドコモ プロボノプロジェクト

株式会社NTTドコモ

社会課題解決の実体験を通じて、「社会課題への理解」と「課題解決のプロセス習得」に繋がる研修としてプロボノを実施。社会課題への感度が高く、各事業において社会課題を踏まえた挑戦ができる“サステナ人材”を育成することを目的としています。1日間で課題整理と解決策提案を行う初級編を2回開催。また、2日間で課題解決につながる成果物を提供する中級編を1回開催。合計66名の社員が参加し、環境や貧困をテーマに活動する6団体を支援しました。

住友商事 教育支援プロボノ

住友商事株式会社

社会貢献活動プログラム「100SEED」の一環として、教育課題に取り組むNPOを支援しています。2023年度の上期には、初の取り組みとして、団体の課題整理と支援ニーズを明確化するスコーパソンを実施し、18名の社員が6団体を支援しました。下期は、13名の社員が3団体に対して、営業資料作成やマーケティング調査などのプロボノ支援を実施しました。すべてのチームで現場見学を行い、団体の活動内容や課題への理解を深めました。

日立企業プロボノ

日立グループ

本業での知見や経験を生かした社会課題の解決を目指し、3カ月間のプロボノ活動に取り組んでいます。2023年度は、26名の社員から参加希望があり、障がい者支援や子どもの居場所づくりなどを行う4団体に対し、課題整理や営業資料作成等の支援を行いました。また、今年度は初めて「ふるさとプロボノ」として、地域創生に取り組む石巻の団体を支援。チームメンバーは2泊3日の現地滞在を通して、活動現場の見学や関係者へのヒアリング等を行うことで理解を深め、課題解決につなげました。

Panasonic NPO/NGOサポートプロボノプログラム

パナソニックグループ

2023年度は、福島の復興支援、フードバンク、女性・子ども支援など、サポートファンドの助成先を含む5団体の支援に計28名が参加し、累計400名の参加者数となりました。岡山県や北九州市への訪問を通し、支援先団体の温度感を肌で感じながら、事業評価や業務効率化、システム化に関する提案を実施し、NPOの組織基盤強化に寄与しました。

担当者同士で情報連携し、プログラムの質を高める「企業プロボノ プラットフォーム」をスタート

昨年度の「企業内プロボノを導入する8社横断意識調査」を契機に、企業間での継続した情報交換を実現する「企業プロボノプラットフォーム」がスタート。2023年7月に14社が集い、「プロボノでの気づきや学びを仕事につなげる上での工夫」や「経験者コミュニティ形成」「社内外の理解向上」など複数のテーマで議論を交わしました。2024年3月には、参加社員によるプロボノ経験談の共有、社員同士の交流の機会を創出しました。

団体の課題を整理するプロボノ体験「スコーパソン」を定期開催

NPOの課題棚卸と整理に取り組む課題整理ワークショップ「スコーパソン」を企業のみなさまとも定期開催しています。参加者にはプロボノ体験企画として、課題整理と支援ニーズ（スコープ）への落とし込みに貢献します。2023年度はBNPパリバ、東邦ガス労働組合、村田製作所から、のべ20名の方に参加いただきました。

地域づくりとプロボノ

社会課題が複雑化、複合化するなかで、住民主体の地域づくりと多様な主体の社会参加の推進は全国共通のテーマです。サービスグラントでは、「プロボノ」の実践を通じて培ったコーディネーションノウハウを各地の中間支援組織、地域活動者等に共有することで、「プロジェクト型協働」による地域づくりの仕組みを着実に根付かせています。

29の行政機関
9の財団・中間支援組織
と協働 ※2016年度〜2023年度

だれもがいきいきと暮らせる地域にするために

東京ホームタウンプロジェクト

東京都 福祉局 高齢者施策推進部 在宅支援課

9年目を迎えた2023年度は、都内の地域団体等への15件のプロボノ支援、行政職員・生活支援コーディネーター等への研修を実施。社会参加促進のためのプラットフォーム「地域参加のトビラ」を立ち上げ、地域団体と新たな参加者との出会いの場の創出に取り組みました。4年ぶりに会場開催した年度総括イベントには約350名が参加し、熱気あふれる交流の場となりました。

大阪ええまちプロジェクト

大阪府 福祉部 高齢介護室 介護支援課

高齢者を含む地域の多様な方々で支え合い・助け合いの活動をする団体を、14件のプロジェクトで支援。また、新たな取り組みとして府内2市を対象に地域づくりのための情報分析支援を行う「大阪ええまち調査隊」を実施しました。総括イベント「大交流会」は2日間でのべ220名が、会場・オンラインから参加。5年ぶりの対面交流も実現し、市町村を超えた住民活動の情報交流も生まれました。

ハマボノ(ヨコハマプロボノ)

横浜市 健康福祉局 地域包括ケア推進課

全国に先駆けて地域包括ケアに取り組んできた横浜市が2019年度に開始したプログラムです。地域包括ケアを推進する地域活動団体を支援先とし、地域ケアプラザなどの担当者がハマボノの支援者として関わり、市民などの参加を得て実施しました。2023年度はチーム型プロジェクト「1DAYチャレンジ」を1件、「ハマボノ」を約4カ月間で4件実施し、28人のプロボノワーカーが参加。個人による支援「ハマボノmini」では6プロジェクトが完了しました。

地域の課題解決プロボノプロジェクト/まちの腕きき掲示板

公益財団法人 東京都つながり創生財団

東京都内の町会・自治会をプロボノにより支援。「地域の課題解決プロボノプロジェクト」では、6団体の運営基盤強化にむけたチーム型支援と、ホームページ立ち上げ・LINE活用をきっかけに情報発信に取り組みたい11団体への伴走支援を実施。また情報発信の課題整理ワークショップを通じて17団体を支援しました。町会・自治会のちょっとしたお困りごとを個人のプロボノワーカー=“腕きき”がサポートするオンラインマッチング「まちの腕きき掲示板」では、大田区、江戸川区、狛江市にてマッチングの取り組みを支援しました。

障害者スポーツ団体体制強化支援事業

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

東京都域を統括する障害者スポーツ競技団体に対し、プロボノプロジェクトを実施しています。本年度は東京身体障害者卓球連盟に対して、ジンドゥー・Wixウェブサイト制作の支援を行い、情報発信基盤となるホームページの公開へと至りました。また、公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会に対して、都域障害者スポーツ団体向けガバナンスコードの正しい理解促進と継続したアセスメント体制確立に向けた支援を行いました。

競技団体組織基盤強化支援事業

公益財団法人東京都スポーツ協会(旧:公益財団法人東京都体育協会)

東京都スポーツ協会は、東京都におけるスポーツ競技団体等と協働しながら、スポーツの振興や都民の健康増進、競技スポーツの発展等を目的に活動しています。プロボノプロジェクトでは、各スポーツ競技団体が抱える課題を解決し、安定的に団体を運営していけるよう運営基盤を強化することを目指しました。初めての取り組みとなる2023年度は、東京都スケート連盟と東京都トライアスロン連合に対して支援を行いました。

住む場所を超えて、地域のために

ふるさとプロボノ
農山漁村関わり創出事業

(農山漁村発イノベーション対策 地域活性化型)

農林水産省　農山漁村振興交付金事業

“地域をこえて「一緒につくる」を日本中に。”をコンセプトに、持続可能な地域づくりに向けて、プロボノを通じて地域外からの関わりを創出し、新たな関係人口を生み出す試みが「ふるさとプロボノ」です。2022年度から2カ年は農林水産省の交付金を活用し、主に農山漁村エリアにおいて、社会参加プラットフォーム「GRANT」を通じたプロジェクトを推進。新たに繋がった19地域の団体は、いつでも何件でも外部からの協力を求めることが可能となりました。
新潟県、石川県、島根県などでは、地域団体に精通し、サポートができる中間支援組織や行政が「地域コーディネーター」を担い、自律的な活用が始まっています。行政、企業、NPO、社会人をつなぐ効果的なプログラムとして、今後も全国各地の地域づくりに貢献していきます。

YouTube
ふるさとプロボノの
ドキュメンタリー動画 ▸

青森プロボノチャレンジ

青森県 交通・地域社会部 地域生活文化課(旧 環境生活部 県民生活文化課)

「青森県型地域共生社会」に向け、県内・首都圏在住のプロボノワーカーがチームを組み、4団体を支援しました。県内NPO・地域団体が抱える課題を解決することで組織基盤を強化し、安心して暮らせる地域づくりへの取り組みが進むことを目指しています。また、団体がプロボノ支援を受ける機会をさらに拡大するため、プラットフォーム「GRANT」において、青森県社会福祉協議会の独自コーディネーターページを開設し、伴走支援を行いました。

地域単位での担い手マッチングを実現

「GRANT」では、行政や中間支援組織などの担当者がコーディネーターとなり、新たな地域づくりの推進力を生み出しています。

プロボノMATSUDO

千葉県松戸市
福祉長寿部　高齢者支援課

千葉大学と連携して都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」を推進しています。その一環として、プロボノワーカーの発掘と、支援を受けたい地域の「通いの場」や障害者就労支援施設などとのマッチングを実施。2023年度は9団体、2017年度からの累計で延べ30以上の団体に向けて、プロボノワーカー約80名が活動しています。

四日市プロボノプロジェクト

三重県四日市市
市民生活部 市民協働安全課

市民活動団体の抱える課題解決に向けて、四日市市職員によるGRANTコーディネーターとしての活用を推進するため、コーディネーター向け研修資料の作成や、市民活動団体向けワークショップ、市民向けイベントを実施しました。2023年度は、2団体4件のプロジェクトが立ち上がり、プロボノワーカーとともに、団体の課題解決に取り組みました。

みなとパートナーズ

東京都港区
産業・地域振興支援部 地域振興課

多様な主体による協働を促進するため、GRANTを活用。課題を抱える区内町会・自治会、NPO及びボランティア団体などの各活動主体と、プロボノワーカーとして活動したい区内在住・在勤者をつなげています。2023年度は区内団体と区民を対象にGRANT説明会を開催。登録団体は12団体に増え、プロジェクトも1件立ち上がり、団体の課題解決に取り組みました。

全国にネットワークを持つ組織との連携・協働

休眠預金活用団体×企業プロボノを促進

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構（JANPIA）

2023年8月30日、休眠預金活用団体に対して、ボランティア・プロボノに係るコーディネーション力強化および実行団体の支援ニーズを具体化するための講座を実施し、資金分配団体10団体・実行団体6団体の参加がありました。また、2023年10月6日、2022年度ボランティア・プロボノマッチング会の成果報告会において、パネルディスカッションのコメンテーターとして登壇しました。

赤十字奉仕団の活動を維持・強化するために

日本赤十字社

災害救護や地域福祉など、全国各地でボランティア活動に取り組む赤十字奉仕団の活動を維持・強化することを目的に協働しました。サービスグラントが培ってきたプロボノ支援の手法を応用し、目標・期間を設定し課題解決に取り組む「プロジェクト型活動」を推進しました。2023年度は、全国の奉仕団に対する研修会や、岩手県支部や山口県支部をモデル地域とした伴走支援を行いました。

メディア掲載・講演実績

メディア掲載

テレビ

2023年5月25日 長崎国際テレビ
2023年11月10日 NHK「漫画家イエナガの複雑社会を超定義」
2023年12月1日 韓国KBSテレビ

新聞

2023年5月26日 長崎新聞
2023年11月23日・24日 朝日新聞
2024年1月22日 神奈川新聞
2024年3月29日 毎日新聞 大阪版

雑誌・専門誌

2023年4月号 スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版
2023年9月19日 繊研新聞
2023年10月号 ガバナンス
2024年2月号 SAISON express

「渋谷のラジオ」渋谷でプロボノ-大人の社会科見学-
毎週金11:10-11:55放送

ウェブ

2023年4月 NTTコミュニケーションズ サスティナビリティマガジン
2023年6月9日 朝日新聞SDGs ACTION!
2023年11月-12月 講談社 mi-mollet（連載）
2024年1月21日 カナロコ by 神奈川新聞
2024年3月1日号 しぶや区ニュース
2024年3月29日 毎日新聞デジタル
2024年3月29日 ソトコトオンライン

ラジオ

2023年8月10日 TBSラジオ「荻上チキ・Session」
2023年4月-2024年3月毎週金曜 渋谷のラジオ

「ふるさとプロボノ」ドキュメンタリー動画より

講演実績

嵯峨 生馬

2023年5月20日 横浜創英中学・高等学校
2023年6月3日 法政大学
2023年6月7日 ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社
2023年7月27日 TEAM BEYOND カンファレンス
2023年7月27日～ 日立製作所ITユーザー会（収録動画）
2023年8月5日 小学館「せんせいゼミナール」オンライン研修会
2023年8月26日 自治体学会 川崎大会
2023年9月9日 早稲田大学Life Redesign College
2023年12月22日 地域活性化センター
2024年3月2日 日本財団ボランティアセンター Volunteer's Summit

岡本 祥公子

2023年4月26日 成蹊大学
2023年9月8日 生活協同組合コープこうべ
2024年1月29日 NPO法人ETIC.

小林 智穂子

2023年5月17日 BNP PARIBAS

津田 詩織

2023年12月20日 厚生労働省 障害者等の ICT 機器利用支援事業 ICTサポートセンター地域会議

柴岡 久美子

2023年5月29日 JAPAN LIVE YELL project

上原 一紀

2023年6月11日 足立区NPO活動支援センター
2024年2月12日 中野区・中野若者会議チャレンジ実行委員会

太田 侑里

2023年10月28日 国分寺市社会福祉協議会 町会セミナー

堀 久仁子

2023年10月10日 フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム
2023年12月15日 桃山学院大学

会計報告

サービスグラントの会計年度は9月末が決算期です。
2022年度（2022年10月1日～2023年9月30日）の活動計算書は以下の通りです。

	科目	金額	小計・合計
A	経　常　収　益		213,044,261
	1.正会員受取会費		74,000
	2.受取寄附金		2,255,047
	3.受取助成金等		0
	4.事業収益		210,714,228
	サービスグラントの提供を通じたNPO支援事業	2,606,954	
	企業・行政等との連携によるプロボノプログラムの事業	206,103,638	
	プロボノプログラムの運営を担う人材育成事業	2,003,636	
	プロボノの普及・広報・社会的制度化に関する事業	0	
	5. 受取利息		986
B	経　常　費　用		192,578,328
	1.事業費		173,755,388
	給料手当	84,615,978	
	法定福利費	12,809,890	
	外注費	49,847,476	
	租税公課	10,409,769	
	旅費交通費	5,345,339	
	通信運搬費	1,970,691	
	会議費	2,046,600	
	印刷製本費	1,876,530	
	地代家賃	1,369,392	
	減価償却費	1,724,549	
	その他経費	1,739,174	
	2.管理費		18,822,940
	給料手当	7,153,450	
	法定福利費	1,083,023	
	支払手数料	1,616,757	
	地代家賃	4,686,900	
	支払報酬料	1,578,500	
	その他経費	2,704,310	
	当　期　経　常　増　減　額　【A】－【B】…①		20,465,933
C	経　常　外　収　益		45,000
	雑収益	45,000	
D	経　常　外　費　用　計		0
	当　期　経　常　外　増　減　額　【C】－【D】…②		45,000
	税　引　前　当　期　正　味　財　産　増　減　額　①＋②…③		20,510,933
	法人税、住民税及び事業税…④		8,478,800
	前期繰越正味財産額…⑤		99,058,813
	次　期　繰　越　正　味　財　産　額　③－④＋⑤		111,090,946

サービスグラントのビジョンとミッション

VISION　社会参加先進国へ

社会課題を前に、互いの立場や違いを尊重しながら、
当たり前のように協働できる社会を目指して

社会課題を前に、誰もが行動を起こすことのできる機会が、すぐそこにある。
多様なそれぞれが互いの違いを尊重し、可能性を活かしあいながら当たり前に協働できる。
それが、私たちが考え、私たちが目指す、「社会参加先進国」です。
「プロボノ」は、社会課題解決に取り組む非営利組織の活動を躍進させる力として、またビジネスパーソンの社会貢献手法として、着実に浸透してきています。サービスグラントが切り開き、これまでの実践を通じて培ってきたもの、それは単なる手段や手法ではありません。複数の主体が共通の目的のもとに協働し、成果を生み出すまでに、何が求められ、何が力となるのか。
私たちの知見は、これらの普遍的な問いに対して常にアップデートされ続けています。
サッカーをする人が、ボールさえあれば誰とでもプレーを楽しめるように。
音楽を愛する人が、国を越えて歌い、語りあうように。
サービスグラントは、日本を、世界を、社会参加先進国にすることを目指し、挑戦を続けます。

MISSION　プロボノを進化させる

- Quality Pro Bono Everywhere －　常に質の高いプロボノを行うためノウハウを蓄積する

- Do+Enable －　他者との協働を通じて、プロボノの可能性を広げる

事務局所在地

東京事務局(団体本部)
〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-2-10
中里ビル4F
TEL 03-6419-4021
FAX 03-6419-3885

関西事務局
〒541-0047
大阪市中央区淡路町2-5-16
淡路町ビル8F
TEL 06-6484-5810
FAX 06-6484-5820

本年度のプロジェクト実施団体は以下よりご欄いただけます。

▲ チーム型支援

▲ GRANT

役員

理事
嵯峨 生馬(代表)
生駒 芳子
石原 英樹
岡本 祥公子
川渕 恵理子
中村 天江

監事
池山 允浩

特別顧問
奥山 俊一

スタッフ
(入職日順)

東京
小林 智穂子
宮坂 奈々
津田 詩織
樫尾 直美
北詰 佳子
柴岡 久美子
中川 寛允
草野 杏子
上原 一紀
太田 侑里
大森 純子
栗原 彩乃
篠崎 敦司
谷口 有沙
早野 和美
新井 博子
幸野　隆英
西野　祐子
吉田　彩音
小泉 英治朗
曽根 泰夫
細川 美津子
阿部 孝

関西
槇野 吉晃
河井 靖子
角永 圭司郎
田中 綾香
堀 久仁子
永野 純一郎

九州特任
横道 亨

パートナー
(登録日順)

北場 彰
須藤 恭太
二階堂 光洋
田中 洋
山田 孝雄
宮田 文
安藤 嘉浩
一色 義直
川窪 千壽
福澤 進
貞光 九月
岡林 典雄
米倉 史人
紺野 浩司
三嶌 智史
片野 裕規
村瀬 匡範
福原 敦士
椎名 健治
工藤 麻衣子
山本 行道
高見 悦子
池田 祐理
辰井 俊二
中川 智子
逸本 寛明
大瀧 美紀
富永 亜矢
田中 克典
立松 英樹
松井 俊祐
福永 圭佑
藤本 典子
上阪 幸恵
平井 佳亜樹
福田 寛久

ご寄付・ご支援のお願い

サービスグラントでは、多岐にわたる社会課題の解決に向けて、企業・行政・財団などとの
協働事業を通じて自団体の財政基盤を確保しながら、プロボノの取り組みを推進しています。
同時に、社会的インパクトの創出を第一義に、財政的な裏付けがない場面においても、
自主事業としてのプロボノプロジェクトの立ち上げ・運営に、今後も力を注ぎたいと考えています。
自主事業には、「GRANT」やコーディネーター育成プログラムなどの新規開発と運営、
チーム型支援（長期・短期チーム型支援、スコーパソンなど）などがあります。

こうした、サービスグラントの自主事業を支える仕組みが賛助会員です。
サービスグラントによるプロボノを通じて社会課題解決に関わる人の輪を広げ、
NPOなどソーシャルセクターに支援を提供し、よりよい社会を実現するため、
ぜひみなさまの応援をお願いします。

賛助会費は、1口3,000円/年から。お支払いは、クレジットカード・銀行振込で受け付けています。
なお、サービスグラントは、寄付者のみなさまが寄付金の税額控除を受けることができる
「認定NPO法人」を取得しています。

▼詳しくは以下URL、もしくは右記QRコードよりご覧ください。
https://congrant.com/project/servicegrant/11118

www.servicegrant.or.jp

SERVICE GRANT